

～ほ場の生育に合わせた水管理を！～

1 6月25日現在の生育状況 ～葉数かなり進んでいる～

○6月25日現在の生育は、草丈は
 平年比107%と平年より長く、葉
 数は9.7葉と平年よりかなり進
 んでいます。茎数は平年比98%、
 葉色は平年比100%となってい
 ます。

○茎数はほ場間差が大きく、すでに
 必要茎数を確保したほ場もあり
 ます。また、生育が進み、幼穂形
 成期が早まる可能性があります。ほ場の生育に合わせた水管理を適切に行いましょう。

表1 水稻定点調査結果(農業振興普及課)

	草 丈 (cm)	茎 数 (本/㎡)	葉 数 (葉)	葉 色 (SPAD)
本 年	38.9	491	9.7	45.2
平年値	36.2	502	8.9	45.2
平年比	107%	98%	0.8	100%

品種：あきたこまち、管内5カ所平均

7 月 日	上 旬	中 旬	下 旬
	1 5 10	15 20	25 30
生 育	最高分げつ期 10葉期	幼穂形成期 11葉期	減数分裂期 12葉期
水管理	中 干 し	間断かん水	湛水管理（カドミウム吸収抑制対策） 湛水管理は8月下旬頃まで
作 業	★斑点米カメムシ類対策 畦畔草刈り ※出穂15～10日前から収穫2週間前まで。ただし出穂期10日後頃の薬剤散布後7日以内に一度草刈りを実施する。		
	★葉いもちが発生した場合 ブランチ剤又はノブライ剤を散布 必要に応じピーム剤の追加散布		
	★穂いもち防除を実施する場合 ① コタツツ 剤又はゴウケツ粒剤を散布 ② トライフロアブル又はピーム剤 + トライフロアブル又はラフサイド 剤		

2 水管理 ～ カドミ対策の湛水期間は出穂前後各3週間 ～

- 目標穂数と同数の茎数を確保できたほ場では、中干しを実施して無効分げつを抑制します。無効分げつを抑えることで稲体の消耗を防ぎ、稔りの良い穂が確保できます。
- 中干しの期間は7～10日位を目安に、田面に軽く亀裂が入り、歩いて軽く足跡がつく程度とし、遅くとも幼穂形成期前までには終了してください。強すぎる中干しは作土の酸化を促進しカドミウムを吸収してしまうため、行わないでください。
- 茎数がまだ確保できていない場合は、引き続き浅水により分げつ発生を促進する管理を行います。その場合、当面は気温が高い予報となっているので、還元に注意し、必要に応じて短期間の落水や間断かん水等を行ってください。
- 中干し後はカドミウム吸収抑制対策として、出穂前後各3週間（開始目安は幼穂形成期頃）の湛水管理を徹底してください。

○湛水管理を行うことで田面が空気に触れないように保ち、土壌を還元状態にすることでカドミウムの溶出を抑え水稻に吸収されるのを防ぐことができます。

用水が不足する場合は、地域で話し合い番水等の対応を行ってください

3 追肥 ～ 幼穂形成期の生育・栄養診断を実施しましょう ～

幼穂形成期の生育による追肥の診断(暫定案)

生育型	生育過剰	理想的な生育	生育不足
草丈 (cm)	65 cm以上	60～65 cm	60 cm以下
葉色 (SPAD502) (葉色板)	42以上 (5.5以上)	39～42 (4.5～5.5)	39以下 (4.5以下)

追肥 (N成分)	幼穂形成期	なし	ムラ直し1 kg/10a	1～2 kg/10a
	減数分裂期	なし	1～2 kg/10a	1～2 kg/10a

注)あきたこまち、目標収量570kg/10a

- 幼穂形成期(幼穂2mm)の極端な葉色低下は、1穂粒数の減少・有効茎歩合の低下を招きます。幼穂を確認し表を参考に生育・栄養診断を実施して下さい。
- 幼穂形成期に草丈65cm以上で葉色が濃い場合は、穂肥は控えます。
- 幼穂形成期に草丈60～65cmで、葉色の低下が見られる場合は、減数分裂期(葉耳間長±0cm)主体の追肥を実施します。
- 幼穂形成期に草丈60cm以下で、葉色が低下している場合は 幼穂形成期と減数分裂期の追肥を実施します。
- 一発型の肥料を施用した場合は、基本的には追肥は控えるようにします。

4 病虫害防除 ～畦畔等の草刈りを徹底して斑点米カメムシ類を抑制～

①斑点米カメムシ類

- 病虫害防除所が6月2～3半旬に全県で行った調査では、畦畔でのすくい取り数は過去3か年平均より多い結果でした。特に、畦畔の除草が不十分な場合やイネ科雑草が出穂している場合に多い傾向でした。畦畔や農道等の草刈りは出穂10日前までに徹底し、イネ科雑草の除去に努めましょう。
- 水田内にホタルイ類等のカヤツリグサ科雑草やノビエの残草があると、アカスジカスミカメの侵入を助長するので、水田内の雑草対策を徹底しましょう。

②いもち病

- ほ場の見回りにより早期発見に努め、病斑を発見したら直ちに予防剤と治療剤の混合剤(ブラシン、ノンブラス)を散布して下さい。
- 葉いもちが発生しているほ場では、出穂15～7日前にコラトップ剤またはゴウケツ粒剤(サンブラス粒剤)を散布するか、出穂直前にビーム剤(又はトライフロアブル)と穂揃期にラブサイド剤(又はトライフロアブル)で茎葉散布を行います。

!! 長期予報では気温が高い予報となっています。熱中症対策を万全に行い作業しましょう!!

あきたこまちRを
紹介しています!
紹介ページはこちら→



秋田米栽培情報発信
LINE始めました!
友達申請はこちら→



※クマにご注意
ください※
クマ情報はこちら→

